

中国四国紀伊半島 山行旅行報告 前半

(大台ヶ原・伯耆大山・
石鎚山・四国剣山)

2010 年 11 月 2 日(火) - 10 日(水)
M4 只左一也

- 11 月 1 日：飛騨高山→(車)→吉野(仮眠)
- 11 月 2 日～5 日：台高山脈縦走
(大台ヶ原～高見山)
- 11 月 6 日：鳥取大山(伯耆大山)
- 11 月 7 日：移動
- 11 月 8 日：石鎚山
- 11 月 9 日～10 日：四国剣山系縦走
(天狗塚～三嶺～剣山)

西日本の名山(結局、すべて百名山になってしまった)に登ろうと、欲張りな計画を立てた。ただ山頂を踏むだけではもったいないので、それぞれの山の良さが味わえるよう、独立峰の大山は別として、大台ヶ原は高見山までの 4 日間の縦走(台高山脈縦走)、四国剣山は三嶺経由の 2 日間の縦走にした。石鎚山も 5 日間の縦走を計画したが、台高山脈縦走で疲れ果てた上、この稜線は舗装された車道が縦走コースと並行して走っていて途中車道を歩かなければいけないこともあり、縦走は中止して石鎚山日帰り登山に変更した(それでも、石鎚山の良さは十分に味わうことができたと思う。石鎚山系の大きさを味わうことはできなかったが・・・)

台高山脈縦走

1 日目 (11月2日(火))

大和上市駅	08:35 発
(バス)	
大台ヶ原駐車場	10:20 着 10:30 発
日出ヶ岳 (1685m)	11:00 着 11:30 発
大台ヶ原駐車場	11:30 着 12:00 発
大台辻	15:00 着 (幕営)
(歩行時間：約 3 時間 30 分)	

11月1日、岐阜県高山での急用を済ませ、大台ヶ原の登山基地となる奈良県吉野まで車で移動。長距離を縦走するため、車を吉野に置き、下山後にバスと電車を使って吉野まで戻り、車を回収するという手段を取った。

縦走1日目の11月2日(火)、大和上市駅から始発の大台ヶ原行きのバスに乗り込む。平日だが天気がよく、また紅葉シーズンのため人が多い。1時間半以上かけて標高1500mの大台ヶ原に着くと、150台停められる駐車場は一杯だった。最高峰の日出ヶ岳(1685m)は縦走路を外れているので、荷物を駐車場に置いて山頂を往復。日本一降雨量の多い大台ヶ原で、かつては苔生す原生林に覆われていたそうだが、台風の被害や増えすぎたシカの食害で、現在は林床は笹に覆われて明るい林となっており、これはこれでなかなかきれいだった。

駐車場に戻り、北の高見山へ向かう台高山脈縦走路に入る。直線距離にして30kmほどの道程である。標高こそ1500mにも満たない山脈だが、原始のままの鬱蒼とした森林が尾根を覆っており、途中エスケープもし辛いことから、人もあまり歩かないコースである。しかし、大台ヶ原の駐車場から1日目の幕営予定地の大台辻まではよく踏まれた歩きやすい道だった。大台辻周辺は尾根が広く、落ち葉の積もった気持ちの良い場所を見つけてテントを張った。シカが多く、テントの周りを何頭かのシカが歩きまわっていた。



平日というのに広い大台ヶ原駐車場は一杯



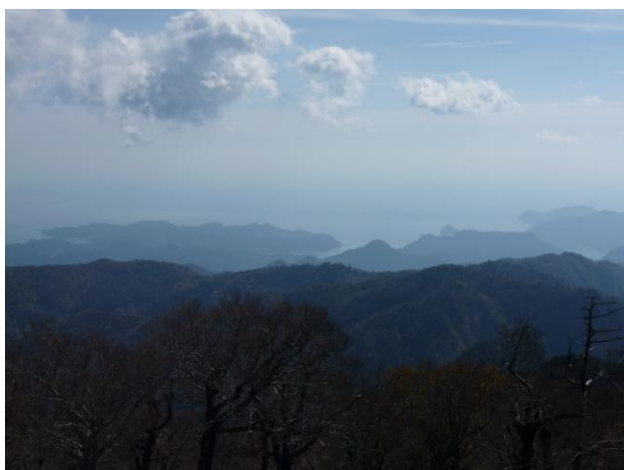
3週間後に縦走する予定の大峰山脈。日出ヶ岳から。



かつては苔生す鬱蒼とした原生林だったが、現在は笹に覆われ、明るい林となっている。



大台ヶ原から縦走路を北に進むと、原始的な雰囲気
の林となる。



日出ヶ岳の山頂から伊勢湾を見下ろす



テントを張った大台辻

2日目（11月3日(水)）

大台辻 06:20発
添谷山(迷って1時間ロス)07:40着 08:40発
地池越 17:00着(幕営)
(歩行時間：約9時間30分)

縦走2日目の11月3日(木)、この日も晴天。大台辻から急に踏み跡が薄くなり、落ち葉で分かりにくいところも多くなってきたが、印のテープもたくさんつけてあるし、明瞭な尾根で迷うことはない。と思って、地図も見ずに呑気に歩いていたら、出発地点から1時間程の添谷山(1250m)の山頂で、親切に表示があるのを無視して枝尾根に入り、うろろうして1時間ほど無駄にするという失態を犯してしまった。標高1100mほどの尾根で、特に有名な山もあるわけではないが、ブナやヒメシャラの巨木が混じる大変美しい原生林を楽しみながら進む。尾根は次第に痩せてきて、岩場もあつたりして歩きがいがあるのだが、とにかく地図に表れないような小さなアップダウンが非常に多く、しかもその斜面が急で道も荒れていて大変歩きにくい。地図でわずか2kmほどの距離が2時間半の時間設定になっていたが、それでも厳しいくらいだった。早いうちにバテ気味になってペースが落ち、1時間のロスも響き、目的地の地池越に着いたときは日も沈んで薄暗くなっていた。急いで水場を探したが、幸い東の谷を数分下った所に豊富に冷たい水が流れていた。



紅葉が見頃



美しいブナ林に覆われた尾根

3日目 (11月4日(木))

地池越	06:10発
池木屋山(1396m)	13:10着 13:30発
明神岳(1432m)	17:25着/発
明神平	17:45着(幕営)

(歩行時間：約 10 時間 30 分)

3日目、さらに天気は好くなり、朝から雲ひとつない快晴。この日は長い行程である。落葉の積もった原生林の間を歩いていると、枯れた木々の間から遠くの山並が垣間見える。気温が下がったせいか、雲海が低いところに垂れこめている。この日も辛い小さなアップダウンを越えていくうちに午前中にすでにバテてしまい、ペースがどんどん落ちる。池木屋山(1396m)の山頂で、大台ヶ原の駐車場を出てから初めて人に出会った。60歳代と思われる2人連れだった。西の三重県側は林道の奥まで車が入れるので日帰りで登ることができるそうである。台高山脈の中で、この池木屋山と、この先の明神岳周辺は日帰りで登ることができるので、人気のようである。池木屋山周辺は広々とした気持ちの良いところだった。予定の時間をオーバーしていたので、先を急ぐがペースが全然上がらない。いくつものピークを越え、ブナの巨木が見事な明神岳(1432m)に着いたときは日も沈んで薄暗くなっていた。目的地の明神平へ下って行くと、真っ暗に。私有の山小屋のある開けた明神平に着くと、2張テントが張ってあったのは意外だった。1晩キャンプをするためだけに下から登って来たそうである。先客に水場を教えてもらい、遅い夕食を済ませ、寝袋に潜り込んだら、疲れ果てていたのので後は前後不覚だった。



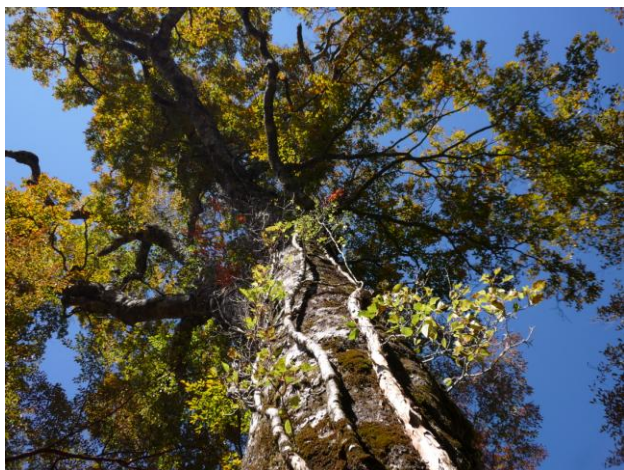
樹林の間から雲海を見下ろす



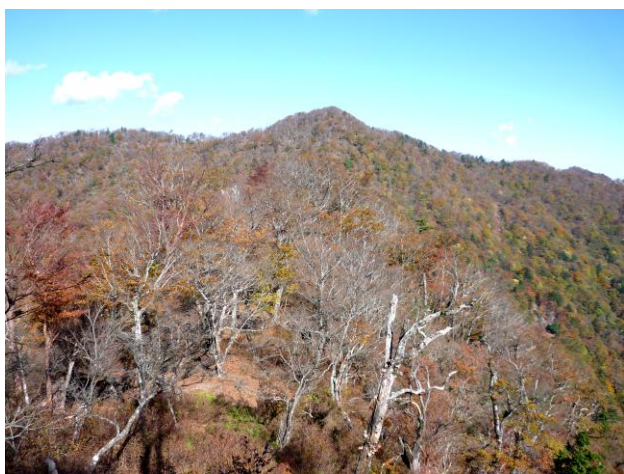
落ち葉の積もった明るい尾根を進む



ときどき痩せ尾根も



ブナの大木



池木屋山 (1396m)





明神岳付近のブナ林

4 日 目 (11月5日(金))

明神平	08:00発
高見峠	11:40着 11:50発
高見山	12:30着 12:50発
下平野バス停 (バス)	14:10着 14:50発
榛原駅 (電車)	15:40着
吉野神宮駅 (車で鳥取へ)	17:40着
(歩行時間：約 5 時間 30 分)	

11月5日(金)、最終日である。前日の疲れで、ひどく寝坊。起きたら6時半だった。この日も雲ひとつない晴天に気をよくして出発。この日の行程は6時間と短い予定だったが、下山口のバスの本数が少ないので、時間を気にしながら歩かなければならない。ここからは人が多く歩く道なので歩きやすくなった。少しずつ標高が下がり、植林が多くなって景色も次第に風情が乏しくなっていく。何人かとすれ違い、車道が越えている高見峠に着くと、高見山登山の車が何台も駐車してあった。ここから高見山までは1時間弱の急登である。高見山は霧氷で有名なところだそうで、冬期の休日になると人で溢れかえるらしい。急だが登りやすい道を淡々と登って行くと、立派な祠のある山頂に到着。山頂には、屋根の上に展望台のついた珍しい避難小屋が立っていた。すでに、10人ほどが休んでいた。眺めがよかったのでゆっくりしたかったが、バスの時間があるので

ぐに出発。植林地帯の中を下って行き、バス停のある平野の集落にバスの時刻の40分ほど前に到着。2時50分のバスで近鉄榛原駅に出て、そこから電車を乗り継ぎ、車を置いてある吉野神宮駅に着いたのは5時半だった。ラジオの天気予報を聞くと、翌日は全国的に秋晴れになるが、その次の日は崩れると言う。次ぎは四国石鎚山系の縦走を考えていたが、この台高縦走で疲れ果て、しかも左ひざに少し違和感があったので、翌日は鳥取の大山(「だいせん」と読みます。知らない人はいないと思いますが…)に日帰りで軽装登山をすることにした。近くの温泉で汗を流し、高速に入って米子に向かった。



明るい明神平



歩いて来た尾根を振り返る



標高が下がると杉の植林地帯となる



高見山山頂の祠



高見山(中央左)



山頂から北の眺め



高見峠



下平野のバス停前

鳥取大山(伯耆大山)

11月6日(土)

登山口駐車場 07:10発
(バス)

山頂(弥山) 09:20着 09:50発

登山口駐車場 12:20着
(車で広島へ)

(歩行時間：約4時間)

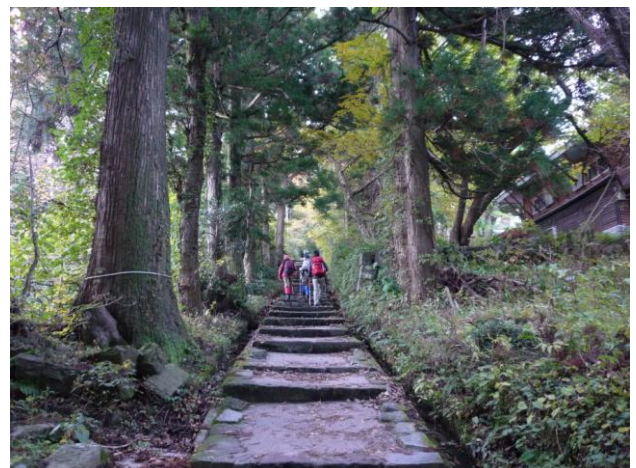
途中、高速のサービスエリアで仮眠を取り、米子で高速を降りて大山の駐車場に着くと、まだ朝6時前というのに、駐車場はほとんど一杯だった。百名山であるし、紅葉の期待できる土曜日で、天気の情報も良ければ当然だろうか。

私も支度して、北の登山口から弥山(山頂)を目指す夏山コースを登り始める。とにかく人が多い。歴史の古い信仰の山だけあって、途中、いくつか史跡の脇を通り過ぎる。少し登ると、ブナの原生林となった。前日までハードな縦走をして疲れ果てていたのに、少し無理をしてでも大山に登ろうと思ったのは、大山のブナ林は西日本一と聞いていたからである。ブナの原生林の大好きな私は、どんなものかと大山のブナ林に期待をしていたが、その素晴らしさには驚いてしまった。大山は独立峰で、飯豊や朝日連峰など東北の山々のように広大な山波が続いているわけでもないのだが、とにかくブナの大木が多く、しかも大変美しいブナ林だった。歩みも自然と遅くなり、高齢の登山者にもどんどん追い越される。ゆっくり登って行くと、7合目あたりで植生がブナから低灌木に変わり、8合目で特別天然記念物に指定されている大山キャラボク林のなだらかな景色となる。木道をだらだら登り、9時過ぎ、山頂の弥山(1709m)に到着。すでに大勢の人が休んでいた。大山の山頂付近は台形のようになっていて、最高地点は弥山ではなく、東にある剣ヶ峰(1729m)なのだが、弥山と剣ヶ峰の間の痩せ尾根は地震などでひどく崩壊していて、滑落事故で多くの死者が出ているので弥山から先は立ち入り禁止になっていて、ロープが張っている。剣ヶ峰はその先も崩れているので逆方向からも登ることが出来ない。しかし、休憩し

ているとロープを越えて剣ヶ峰の方へ進んで行く人が数人いた。私も行きたい誘惑に駆られたが、途中の尾根は非常に細い上ひどく崩れていていやなザレ場になっているのが遠目にも分かる。今年も滑落死があったそうである。これは行ってはいけない場所だと思い、思いとどまった。下りは途中から大山寺を通るコースに入ったが、こちらも見事なブナの原生林だった。景色を楽しみながら下り、12時過ぎに駐車場に戻ると、駐車場に入れない車が道路わきにずらっと並んでいてすごい状況だった。大山を麓から見上げた写真を以前何かで見て、同じ景色をどうしても見たかったので、南面の鍵掛峠に車で向かったが、途中の林道は紅葉目当ての観光客の車で大混雑。道路わきの広いスペースに車を止め、大山の南壁を写真に収めた。次は四国の山に登る予定だったが、翌日は西日本一帯天気が崩れるということなので、近くに寄ったついでに墓参り(広島県三原市の出です)をしようと思って途中の広島で1泊した。



快晴の土曜日とあって、早朝から駐車場は一杯



夏道の登り口



見事なブナ林の中を登って行く



山頂はこの人



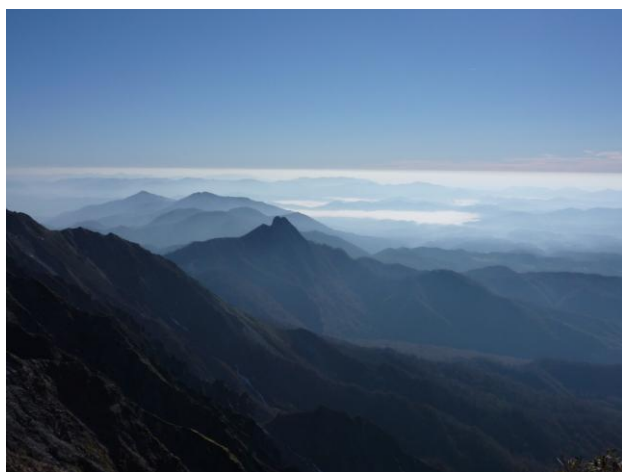
7合目あたりから登山口の方を見下ろす



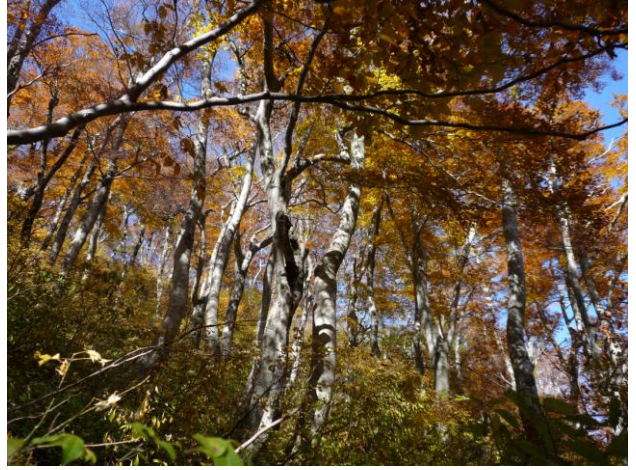
この先は崩壊が激しく、滑落死も多いので通行禁止。
中央は、実際の最高地点の剣が峰。



8合目からはキャラボクの林の中に木道が敷かれて
いる



山頂から東の眺め



ますます混んできた。すれ違いで時間がかかり、登山道は渋滞。

北壁を見上げる



大山寺



大神山神社



鍵掛峠から大山南壁を見上げる



西から大山を眺めると、この通り富士山のような美しい山容